

巻末資料

大学入学共通テスト問題評価・分析委員会 外部評価分科会の外部評価（高等学校教科担当教員の評価）

大学入学共通テストは、「大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的」とした試験として実施されている。このことに照らし、令和4年度大学入学共通テスト（本試験）の試験問題について、以下の項目別（8項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により4段階で評価した。

1 項目別評価

- (1) 問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め、バランスのとれた出題となっている（出題のねらい）
- (2) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されており、特定の分野・領域に極端に偏っていない（出題範囲）
- (3) 出題される資料等^{※1}が、特定の教科書に偏っていない（題材）
- (4) 高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定^{※2}がなされた問題が含まれており、その場面設定が、教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されている（問題の場面設定）
- (5) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (6) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）
- (7) 問題の難易度は適正である（難易度）
- (8) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

※1 教科書等で扱われていない初見の資料等を扱う場合には、その資料そのものの知識を問うのではなく、高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための適切な題材として扱うことができるためこの限りではない

※2 授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など

2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入学共通テストの試験問題として適切である

(評定値)

- 4 あてはまる
- 3 ある程度あてはまる
- 2 あまりあてはまらない
- 1 あてはまらない

科目名	国語
-----	----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	知識の理解の質を問う問題と思考力等を発揮して解く問題は、おおむねバランス良く出題されている。基本的な知識・技能を問う出題の多少が大問間で生じることがないように、すべての大問で思考力、判断力、表現力等を発揮して解くことが求められる問題が充実されることに期待したい。
(2)出題範囲	4	出題範囲は適切である。
(3)題材	3	出題される資料等が特定の教科書に偏っていない。今後も題材として実用的な文章を含めた多様な文章を活用した出題を期待したい。
(4)問題の場面設定	4	高等学校における学習の過程や国語科の授業を想定した出題となっており、高校生の日々の学習や教員の授業改善に向けたメッセージ性のあるものとなっている。
(5)問題構成	4	受験者が高等学校で身に付けた知識・技能や思考力・判断力・表現力を問う問題がバランスよく構成されていた。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は素材文、選択肢群ともに適切であった。
(7)難易度	4	高等学校での指導目標を踏まえ、複数の題材を取り上げるなど授業において学習する過程を意識した設問が出題され、知識の理解や思考力・判断力・表現力等を判定するうえで、難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	4	出題内容と難易度や、受験生の解答の過程を踏まえ、バランスよく配点されていた。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、高等学校学習指導要領において目指す資質・能力について、その達成の程度を判定する試験問題として適切である。

科目名	世界史A
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	知識の活用や読み取りといった、「技能」を問うものが多く見られたが、「思考・判断」を問うことのできるよう、出題に対する工夫が見られたことは評価に値する。今後、そうした問題の割合がさらに増えることを期待している。なお、リード文と関連性の薄い出題をどうすれば減らせるのかが、今後の課題であろう。
(2)出題範囲	3	概ね適切と思われるが、世界史Aの出題としては、もっと近代の比重が高くて良いと思われる。また、出題地域についても、1回の試験では難しいにしても、万遍なく触れておく配慮が求められる。
(3)題材	4	使用されている資料等の題材はおおむね適切であった。風刺画や文字資料など多様な題材やテーマを取り上げていて、受験生に多角的な思考を求めようとする意図を感じた。
(4)問題の場面設定	3	先生と生徒の会話など、学びの場面設定に対する工夫が見られ、概ね適切であった。一部、それが効果的に利用できていない設問も見られたので、さらなる改善を期待したい。
(5)問題構成	3	設問数や配点、設問形式等は適切であったが、今後は、グラフや地図などの題材をより積極的に活用し、また、複数選択や解釈をともなう選択肢などを入れることも積極的に出題していくことを期待する。
(6)表現・用語	4	適切であった。概念などを含む用語をもう少し多く盛り込むと、より思考力を判定することができる出題が可能となると思われる。
(7)難易度	4	単純な知識問題が見られたが、難易度は適切であった。来年度は資料などに基づいて思考力を問う設問を中心とするなかで、今回の難易度を維持して欲しい。
(8)得点のちらばり	4	適正な分布であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	共通テストとして、概ね適正な出題であった。資料などをもとに考えさせる設問を志向していることが読み取れる出題が一定数見られたことは、評価に値する。今後は、そうした問題比率をより高めていくことを期待する。なお、全体的な課題としては、地域や時代のバランスをとることと、会話文を有効活用することなどが挙げられる。

科目名	世界史B
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	リード文や資料と関連性の低い問題や、単純な知識を問う問題が一定数見られたが、概念化された知識を問う問題や思考を問う意図を感じる問題も出題された。
(2)出題範囲	3	高等学校学習指導要領に照らし合わせて、出題範囲は適切であった。古代に関する出題が見られなかったことは改善すべき点ではあるが、複数地域や複数時代を混合した問題も出題されており、工夫が見られた。
(3)題材	4	受験生にとって初見と思われる資料が多く、題材としては適切であった。
(4)問題の場面設定	3	授業の場面を想定して出題されるなどの工夫が見られた。問いを表現したり、仮説を立てたり、検証したりと生徒自身の授業の活動に視点を置いて出題すると、よりよいものになるだろう。
(5)問題構成	4	設問数や配点、設問形式等は適切であった。
(6)表現・用語	4	表現・用語は適切であった。
(7)難易度	3	おおむね適切であったが、事実的知識を問う問題がやや多かった分、難易度はやや低かったように思われる。
(8)得点のちらばり	3	やや上位層が厚くなっている傾向が見られたが、得点の散らばりは適正であった。難易度の調整でさらに改善できると思われる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	高等学校学習指導要領の趣旨を反映した内容であり、入学者選抜の問題として適切であった。論理整合性に基づいた思考を問う問題や、高次の知識を問う問題も見られた。これらの出題が今後さらに増加していくことを期待する。

科目名	日本史A
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	歴史事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求めた問題であった。知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題であった。
(2)出題範囲	4	やや細かな知識を問う問題もみられたが，特定の分野・領域に偏っておらず，高等学校学習指導要領に示された範囲から適切に出題されていた。
(3)題材	4	交流史，社会と生活，鉄道の歴史などさまざまな題材や資料を用いて，幕末からの日本近現代史の各時代・分野を横断的に問う工夫がなされていた。
(4)問題の場面設定	3	調べ学習や史料の収集などの生徒の主体的な学習活動を想定した場面設定がなされていた。来年の共通テストでは，また違った切り口からの場面設定を望みたい。
(5)問題構成	3	おおむね設問数，配点などは適切であった。知識や理解だけでなく思考力・判断力・表現力等を問う問題が多いため，受験者が読む問題・資料の分量が少し多めに感じた。
(6)表現・用語	4	受験者が理解することが困難と思われる文章表現や用語等はとくになかった。
(7)難易度	3	思考力，判断力，表現力等を問う問題はいずれも丁寧に問題文や資料を読み込めば十分に判断することができる。知識・理解を問う問題については少し難易度の高いものもあった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね適正であったと考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視した問題であり，知識・理解の質，思考力・判断力・表現力等がバランス良く問われ，全体として適切な試験であった。

科目名	日本史B
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	各時代の特色とその変遷を、国際環境とも関連付けながら、諸資料に基づいて総合的に問う視点が総じて明確であった。各設問からは、知識・理解に偏ることなく、諸資料を活用しながら思考力、判断力、表現力等をバランス良く問うための工夫が感じられた。
(2)出題範囲	3	時代・分野・領域のいずれにおいても極端に大きな偏りは感じられず、おおむね適切であった。
(3)題材	3	歴史の展開を考察させるための資料として、昨年度は絵画資料や模式図といった多様な媒体が用いられたのに比して、今年度は文字資料に偏重している印象を受けた。
(4)問題の場面設定	3	学習指導要領が求める高校生の学習活動に沿った場面を設定している点は評価できる。博物館・資料館等への調査・見学や校外における聞き取り調査を取り入れるなど、活動の範囲が教室の外にまで広がれば、より多様な出題が可能であったと考えられる。
(5)問題構成	4	設問数・配点・設問形式のいずれにおいても適切であった。
(6)表現・用語	4	解答に際して特に難解と感じる表現・用語は見られなかった。原文を用いた史料においては、理解の補助となる注釈が多く付された点も評価したい。
(7)難易度	3	総じて適正であったと言える。昨年度に引き続いて初見の資料が多数引用されたが、歴史的事象の意味や意義に関する深い理解があれば、難易度の高いものではなく、解答は十分に可能であったと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	著しい偏りは感じられず、おおむね適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	別記のとおり出題のねらいが明確であり、これからの学校教育の在り方に対するメッセージ性に富んだ内容であった。次年度以降も、歴史的思考力を多角的・多面的に問う良質な問題を期待したい。

科目名	地理A
-----	-----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	全体的に知識の理解の質や思考力, 判断力, 表現力等を発揮して解答する問題が多い。また, 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察し, 諸課題の解決に向けた構想を問う問題も出題されており, 問題の作成方針に則った適切なものである。
(2)出題範囲	3	第6問問2の沿岸流と潮汐のような一部の問題に地理Aでは深く学習しない事項も出題されているが, 概ね地理Aの学習内容に即した出題となっており, 適切と言える範囲内であろう。
(3)題材	4	特定の教科書等の偏りは見られず, 高校生が興味をもちやすい資料が使用されている。とくに, 第3問問5の表1は, 韓国の文化・娯楽産業に関する資料が取り上げられており, 地理学習への意欲や関心を高めるとともに, 「現代社会」など他科目での学びも活用できる題材である。
(4)問題の場面設定	4	大問3・5で場面設定が行われている。いずれの大問も実際の高等学校の授業に沿った形で問題が出題されており, 適切である。大問3は, より生徒の主体的な学習における探究の過程が想起されるような展開などの工夫が望まれる。
(5)問題構成	4	設問数は昨年度と同様の30であり, 複数の思考のプロセスを要する設問の配点を4点とするなど, 適切である。
(6)表現・用語	3	第1問問4の図6など, 図のサイズや解像度などの面で読み取りづらい資料がみられたので, 引き続き改善や工夫をお願いしたい。
(7)難易度	4	一部に難易度の高い設問もあったが, 思考力, 判断力, 表現力等を重視する問題の作成方針に基づいて判断すれば, 概ね適切であると言える範囲内だろう。
(8)得点のちらばり	3	受験者は2,187人, 最低点は0点, 最高点は97点で満点はいなかった。資料から得た情報や, 学習で身に付けた知識に基づいた思考力等を測る地理Aの特性を生かしつつ, 引き続き学力のある受験者が高く評価される問題作成をお願いしたい。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	単純に知識を問うのではなく, 知識の理解の質を問う問題や, 思考力, 判断力, 表現力等を発揮して解答することが求められる問題を重視して出題するという作成方針に沿っており, 適切である。

科目名	地理B
-----	-----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	全ての問題に受験生にとって初見となる資料が付され、知識に基づき思考力、判断力、表現力等を発揮して解答することが求められ、問題の作成方針を踏まえ受験生の能力をバランス良く評価できる問題となっている。
(2)出題範囲	4	概ね高等学校学習指導要領を踏まえた幅広い分野・領域から出題されており、扱う地域についても世界・日本ともにバランス良く出題されている。
(3)題材	4	出題されている資料は、教科書ではあまり扱われない、受験生にとっては初見となるものが多く適切である。資料の読解に必要とされる知識は、どの教科書でも扱われるレベルのものとなっている。
(4)問題の場面設定	4	第2問、第5問において実際の授業を想定した場面設定がなされている。扱うテーマに対する探究的な学習過程として自然な流れであり、高等学校における授業の在り方に対する示唆に富む。
(5)問題構成	4	設問数、配点、形式とも概ね適切である。大問5題、小問31問と多くはないが、文章や資料の分量が多く解答には相当な時間を要する。特に重要な知識を基に、思考力、判断力、表現力等を発揮して解答する問題が高配点となっている。
(6)表現・用語	4	文章や用語、図表の表現は概ね適切である。特に地図やグラフの表し方に様々な工夫がなされ、受験生に対し多面的・多角的な考察を促す構造となっている。
(7)難易度	4	大問による難易度の差が見られるものの、全体としては高等学校の学習内容に基づく標準的な良問であった。平均は58.99点で概ね適正である。
(8)得点のちらばり	3	標準偏差は16.23と小さく、受験生の得点が平均点付近に集中し、高得点を取りにくい傾向が続いている。知識を重視する問題では図表の読み取りを単純化するなど、具体的な改善をお願いしたい。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として問題作成方針に沿った多くの良問で構成される適切な試験である。多様な資料を用いて、知識の質や、知識に基づく思考力、判断力、表現力等を発揮して解答する問題が重視されており、高等学校における教育に対しても示唆に富んだ試験問題であった。

科目名	現代社会
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や思考力等を発揮して解く問題の出題も含め、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	適切に出題されている。
(3)題材	3	出題される資料等が特定の教科書におおむね偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	教科・科目の本質に照らして必然性のある形で出題されている。
(5)問題構成	4	試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	3	文章表現・用語は適切なものが大半である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。

科目名	倫理
-----	----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	単純な知識のみを問うものはほとんどなく、全体に知識の理解の質や思考力などを発揮して解く設問がバランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	3	倫理としてはやや細かな知識を問う設問もみられたが、特定の分野に偏ることなくおおむね適切に出題されていた。
(3)題材	4	出題される題材に偏りはなかった。原典資料、図や表などの設問は、知識を用いたり、思考力を発揮したりして解く題材である。また受験者の興味を引くものでもありこうした工夫を継続していただきたい。
(4)問題の場面設定	4	高等学校の倫理における授業を想定した場面設定となっており、高校の授業改善に向けたメッセージ性のあるものもあった。
(5)問題構成	3	設問数や配点、設問形式等はおおむね適切であった。レイアウトについては、問題作成方針に沿って文章の量の精査をお願いしたい。資料と設問がページをめくらなければ確認できないものがあった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。
(7)難易度	4	おおむね標準的な難易度の問題が多く、全体として難易度は適正であった。
(8)得点のちらばり	4	得点の分布はおおむね正規分布を示しており、得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。問題作成方針に示された学習過程を意識した場面設定や多様な資料を用いて知識の理解の質を問う設問、思考力・判断力を発揮して解く設問などバランス良く出題されていた。

科目名	政治・経済
-----	-------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が出題されており、バランスの取れた出題となっている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲から出題されており、政治分野、経済分野の偏りもなく、適切な出題である。ただし、場面設定の関係から、やや地方自治関連の出題が多かった。
(3)題材	4	出題された資料等については、特定の教科書に偏っておらず適切であった。ただし、少数の教科書にのみ記載がある題材もみられ、これらの題材の使用については十分な検討が必要である。
(4)問題の場面設定	3	高等学校における生徒の主体的な学習の過程を意識した場面設定がなされており、高等学校における授業改善へのメッセージ性がある。ただし、場面設定と設問との関連性が希薄な場面設定もみられている点は課題である。
(5)問題構成	3	おおむね適切であるが、問題を解くのに時間がかかる設問が多く、受験生にとって時間が十分ではなかったと思われる。また、各設問の配点について、今回は適切であるが、試験問題の後半にかけて配点の高い問題が連続しているため、今後、出題内容を踏まえ、配点のバランスについて十分検討していただきたい。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語については、受験生が理解しやすいように工夫されており、適切であった。ただし、一部の設問において、資料と語のつながりに粗さもみられたので、受験生が混乱しないような改善を期待する。
(7)難易度	4	全体としては、平易な問題から難易度の高い問題までバランスよく出題されており、適正な難易度である。昨年度にみられた複雑な問題がなくなり、素直な問題が増えた印象がある。
(8)得点のちらばり	4	平均点付近を中心に得点がちらばっていて正規分布を示しており、選抜試験問題として適正なものであった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	場面設定において、生徒の主体的な学習が志向されており、高等学校の授業改善につながるメッセージ性のあるものとなっている。知識・理解だけでなく、思考力・判断力・表現力等を測る指標として工夫された良問も多くみられた。大問ごとの場面設定の導入部分と各設問とを、より一層どのように関連付けていくは、今後の課題である。

科目名	倫理, 政治・経済
-----	-----------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	全体として、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問が出題されており、バランスの取れた出題となっている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲から出題されており、特定の分野に偏ることなく、おおむね適切に出題されている。
(3)題材	4	出題された資料等については、特定の教科書に偏っておらず適切である。
(4)問題の場面設定	3	生徒の主体的な学習の過程を意識した場面設定がなされており、高等学校における授業改善へのメッセージ性がある。
(5)問題構成	3	設問数や配点、設問形式等については、おおむね適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語については、適切である。
(7)難易度	4	全体としては、平易な問題から難易度の高い問題までバランスよく出題されており、適正な難易度である。
(8)得点のちらばり	4	得点の分布はおおむね正規分布を示しており、選抜試験問題として適正なものである。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	問題作成方針に示された学習過程を意識した場面設定、多様な資料を用いて知識の理解の質を問う設問や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く設問などバランス良く出題されており、全体として適切である。

科目名	数学 I
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず，日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や，数学を活用した問題解決に向けて，構想・見通しを立てる力，解決過程を振り返り得られた結果を意味づける力といった思考力・判断力・表現力等を問う問題もバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており，設問内容も指導要領の範囲内であるとともに，その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して，数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており，問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	3	試験時間や受験者層等に照らして，配点，設問形式は適切であるものの，計算量に対して設問数はやや多い。
(6)表現・用語	4	理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく，使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないよう，図も交えて説明されており，適切である。
(7)難易度	2	作成方針に即した思考力・判断・表現力等を求める設問は時間に比して多く，計算量の多い設問も散見された。そのため総合的にみると解答時間に余裕がなくなった受験者が多いことが推察される。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	出題範囲は適切であり，育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。計算量が多いものも散見され，結果として難易度に課題は残ったものの得点のちらばりは適正であった。作成方針に即して概ね適切である。

科目名	数学Ⅰ・数学A
-----	---------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や、数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てる力、解決過程を振り返り得られた結果を意味づける力といった思考力・判断力・表現力等を問う問題もバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており、設問内容も指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して、数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており、問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	3	試験時間や受験者層等に照らして配点と設問形式は適切であるものの、計算量に対して設問数はやや多い。
(6)表現・用語	4	理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく、使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないよう、図も交えて説明されており、適切である。
(7)難易度	2	作成方針に即した思考力・判断・表現力等を求める設問は時間に比して多く、計算量の多い設問も散見された。そのため総合的にみると解答時間に余裕がなくなった受験者が多いことが推察される。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	出題範囲は適切であり、育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。計算量が多いものも散見され、結果として難易度に課題は残ったものの得点のちらばりは適正であった。作成方針に即して概ね適切である。

科目名	数学Ⅱ
-----	-----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、数学的に処理する力を問うだけでなく、問題の後半では前半で求めた結果を用いて考察させる知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を問う問題も出題されており、バランスのとれた出題といえる。
(2)出題範囲	4	特定の分野・領域に偏りもなく科目の全範囲から出題されており適切である。
(3)題材	4	出題された題材は特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	解決の見通しを立て、数学的な見方・考え方を働かせる的確かつ能率的に処理し、結果を振り返って活用する数学的な問題解決の過程が重視されている。問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	煩雑な値を計算させるものもあったが、全体的に既知の知識等を活用し、解決することができる設問がバランスよく配置されている。設問数、配点ともに適切である。
(6)表現・用語	4	理解しがたい表現や誤解を与える表現はなく、会話文も解決の見通しを立てさせる最小限のものとなっており、適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(8)得点のちらばり	4	平均点は34.41、標準偏差は15.50で分布はほぼ正規分布に従っている。得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。

科目名	数学Ⅱ・数学B
-----	---------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や与えられた事象の特徴をとらえ数学化し、数学を活用した問題解決に向けて見通しを立てる力や得られた結果を振り返って活用する力などが問われており、バランスの取れた出題となっている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されている。設問内容も指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	解決の見通しを立て、数学的な見方・考え方を働かせる的確かつ能率的に処理し、結果を振り返って活用する数学的な問題解決の過程が重視されている。問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	煩雑な値を計算させるものもあったが、全体的に既知の知識等を活用し、解決することができる設問がバランスよく配置されている。ただ、問題の最後に結果を適用させるものが複数あり、試験時間も考慮して検討いただきたい。配点は適切である。
(6)表現・用語	3	ほとんどの問題が理解しがたい表現や誤解を与える表現はなく、会話文も解決の見通しを立てさせる最小限のものとなっている。ただ、第4問では、数学の事象を説明する部分が長いため、提示の仕方に課題がある。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(8)得点のちらばり	4	平均点は43.06、標準偏差は17.05で分布はほぼ正規分布に従っている。得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。ただし、問題の提示の仕方を含め、60分という試験時間に照らして、各問題に充てられる時間も考慮していただき、受験生の力が正しく測れるように十分検討してほしい。

科目名	簿記・会計
-----	-------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基礎的内容から応用的内容まで網羅されており、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題を含め、バランスの良い出題である。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されており、特定の分野・領域に偏っておらず適切である。
(3)題材	4	資料等は、特定の教科書に偏っておらず適切である。
(4)問題の場面設定	4	先輩と後輩が会話しながら簿記・会計の理解を深めていく様子は、簿記の学習過程において必然性のある形で出題されており、適切である。
(5)問題構成	3	基礎的内容の出題と応用的内容の出題でバランス良く構成されている。一方、読み取りに手間が掛かり、やや解答時間に不足が生じている傾向が見受けられる。設問数、配点、設問形式等試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は、教科書の一般的な表現を使用しており、適切である。
(7)難易度	4	平均点は昨年度よりもやや上昇しており、難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは、おおむね正規分布に近い形を示しており、適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	上記の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	情報関係基礎
-----	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	情報に関する基礎的科目での知識・理解の質，思考力・判断力・表現力等といった資質・能力の要素を踏まえ，問題解決を進めていく過程の出題がなされている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲から，基本的な内容からそれを活用する内容まで，特定の学科の学習内容に偏らず出題されている。
(3)題材	4	特定の学科の内容や教科書の内容に偏ることなく，どの学科に属した受験者であっても，出題の内容を読み取れる題材である。
(4)問題の場面設定	4	基本的な知識を用いて，身の回りの問題を解決する手順や方策を考える場面が設定されており，適切である。
(5)問題構成	4	共通問題2問必答，選択問題より1問選択という形式は，学科ごとの学習内容の差異を鑑みて適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。文章だけでなく図や表を示すことで，受験者が出題の内容を適切に考えられるような配慮がなされている。
(7)難易度	3	解答に時間が掛かる問題も見られたので，各大問の適切な時間配分を踏まえた難易度となるよう配慮をお願いしたい。また，第3問と第4問の難易度の差異が生じないように配慮をお願いしたい。
(8)得点のちらばり	4	平均点，標準偏差の値から適切な分布であった。また出題範囲，難易度，受験者の実態からも適切である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて，知識・理解の質，思考力・判断力・表現力等を問う大学入学共通テストの試験問題として適切であった。

科目名	物理基礎
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮し考察していくことが求められる問題の出題を含め、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されており、幅広い分野・領域から偏りなく出題されている。
(3)題材	4	基礎・基本を問う問題に適切な題材として、日常生活で見られる現象に基づく実験結果のグラフ等が取り上げられており、特定の教科書等に偏ったものではない。
(4)問題の場面設定	4	科学の探究の過程を意識した場面設定がされており、日常生活から課題を発見し探究する中で、物理の本質に迫るものであり、必然性ある形で出題されている。
(5)問題構成	3	試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は、受験者の学習状況と照らし合わせおおむね適正であるが、小問集合に特定の分野からの出題に若干偏りがあり、検討の余地がある。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は、理解しにくい表現はなく、場面設定や図の説明等、端的に示されるよう工夫されており、わかりやすく適切に出題されている。
(7)難易度	4	基礎的、標準的な問題を中心に、探究的な活動により考察を深めることが求められる発展的な問題も適度に含まれており、難易度としては適正である。
(8)得点のちらばり	4	平均点30.40、標準偏差10.35で得点分布はおおむね正規分布に従っており、得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の到達の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力を把握する目的を達成しており、大学入学共通テストの試験問題として適正である。

科目名	物理
-----	----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	思考力・判断力・表現力等を問う内容が多く、また、基本的な実験を重視した内容も見られ、大学共通テストの理念に沿った内容の出題であった。
(2)出題範囲	3	すべての領域から出題されたが、大問が4であり、熱力学は小問1問のみであった。力学分野は大問3や大問4でも出題され、全体として多く、大問2では運動量関連がやや多かった。
(3)題材	3	日常生活の経験からを話題にした出題はあったが、試行調査や昨年度の共通テストで見られたブランコやギター、ダイヤモンドなど、身近なものについての出題はなかった。
(4)問題の場面設定	4	間違っただけの仮説について、探究的に反証する設定はユニークで、設問の展開を含め、物理的にもおもしろい内容であった。
(5)問題構成	4	情報を整理し活用する力が必要な設問のために、問題構成に若干の偏りが見られたが、大問の構成や問題数、解答数などを考えると適切であった。
(6)表現・用語	4	グラフや図も多く用いられ、文章が長すぎることもなく適切であったが、科学的な読解力が必要な問題も見られた。
(7)難易度	4	平易な設問も見られたが、全体的には平均点から考えて適切な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	平均点を中心に正規分布に近い形で分布していると考えられ、適切であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	2回目の共通テストであるが、出題のねらいや難易度等も適切であり、身近な実験に関して、実験内容をしっかり理解し、かつ結果の考察をしておくことが重要であるということを示すことができた。

科目名	化学基礎
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質のみならず，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが重視されており，バランスのとれた出題であった。
(2)出題範囲	3	高等学校学習指導要領の範囲から出題されていた。特定の分野・領域への偏りが，ややみられた。
(3)題材	4	大学入学共通テスト問題作成方針のとおり，教科書等で詳しくは扱っていない題材が出題されたが，丁寧な問題文図やグラフ等が与えられており，初見でも解答できるように工夫されていた。
(4)問題の場面設定	4	実験を題材として，探究活動の過程を踏まえ，与えられたデータ等から必要なものを用いて考察する問題が出題された。
(5)問題構成	4	第1問は小問集合問題，第2問は一つの題材についての総合問題であった。小問数は13，解答数は15であった。
(6)表現・用語	4	全体として，高校生にもわかりやすい文章表現・用語が用いられており，理解しやすいものであった。
(7)難易度	4	平均点が27.73点（55.46%）と，前回の平均点24.65点（49.30%）と比較してやや高くなり，適正な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	大学入学共通テスト実施大綱のとおり，「知識・技能のみならず，思考力・判断力・表現力も重視して評価を行う」ために，上記の各項目について工夫され，受験者への配慮が見られた適切な問題であった。

科目名	化学
-----	----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問うという「作成方針」に沿った内容であった。資料やデータ等を基に考察する場面など学習の過程を意識した問題も含まれていた。
(2)出題範囲	4	「物質の状態と平衡」、「物質の変化と平衡」、「無機物質の性質」、「有機化合物の性質」、「高分子化合物の性質」から幅広く出題されており、学習指導要領に示された範囲を網羅していた。
(3)題材	4	「受験者にとって既知でないもの」からの出題については問題文で丁寧に説明されており、受験者への配慮がうかがえた。
(4)問題の場面設定	4	学習の過程を踏まえた問題が含まれており、大学入学共通テストの趣旨に沿っていた。今後については、実験結果の考察やレポート等を題材とするなど、検討をお願いしたい。
(5)問題構成	2	第1問から第4問までは分野別の出題であり、第5問は総合的な問題であった。受験者の思考力・判断力・表現力等を定量的に測定する工夫された問題が多かった反面、一定数の受験者にとってすべての問題に時間内に解答することは難しい構成であった。
(6)表現・用語	4	問題文が長くなっているものの、特に「受験生にとって既知でないもの」を丁寧に説明した結果であり、受験者に対する配慮がうかがえた。
(7)難易度	3	計算問題や思考力等を問う問題が多く、全体として難化したと思われる。また、他の科目と平均点に差があり、科目間の難易度の調整をお願いしたい。
(8)得点のちらばり	3	平均点は47.63点（昨年度は得点調整後で57.59点）、標準偏差は20.28（昨年度は得点調整後で20.01）であった。また、上位層が少なく、平均点前後もしくはそれ以下の生徒が多いなど、やや得点の偏りが見られた。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	「化学」の各分野から幅広く、偏り無く出題されており、学習指導要領に準拠した、受験者の化学に関する理解度を定量的に評価できる良問が多かった。一方、試験時間に対して計算問題や思考力等を問う問題が多く、受験者の負担が大きかった。得点の分布にも偏りが見られた。

科目名	生物基礎
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解を問う問いだけでなく、課題研究活動により培われた思考力を求められるような問いもあり、全体的にバランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領に定める三つの大項目から偏りなく出題された。
(3)題材	4	題材となった実験・観察は多くの教科書に掲載されるものであった。
(4)問題の場面設定	3	おおむね「生物基礎」の学習内容の範囲内での出題であったが、問いの中には日常生活に関連付けることを重視しすぎるあまりに、「生物基礎」の学習内容を超えていると思われる出題も見られた。
(5)問題構成	4	17問あり、昨年度より1問増加した。1問に対し2分弱の解答時間が与えられている。思考力、判断力、表現力等を必要とする問題が増加したため、解答問題数としてはこれが上限であると思われる。
(6)表現・用語	3	問われている内容が受験者にとって判断しづらいものがあつた。適切に伝わるよう、選択肢の設定や問題文中の下線部での強調など受験者に分かりやすい記述を期待したい。
(7)難易度	3	平均点を見ると5割弱であり、難易度としておおむね適正であったと思われる。日常生活や探究活動を基にした問いは受験者の普段からの洞察力や深い思考力を問うものであり、生物学の授業の取り組みについて一石を投じるものであった。
(8)得点のちらばり	4	得点の分布はおおむね正規分布を示しており、得点の散らばりは適正であったと思われる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切であった。次年度以降も目的に則した作問を期待する。

科目名	生物
-----	----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	思考力, 判断力, 表現力等を発揮して解く実験考察問題を中心に, 基本的な知識を問う問題も適度にあり, バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	「生命現象と物質」, 「生殖と発生」, 「生物の環境応答」, 「生態系と環境」, 「生物の進化と系統」の全ての分野から出題されており, 適切である。
(3)題材	4	動植物と遺伝子関連が中心に出題されており, 設問の題材等が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	3	会話形式を取り入れるなど, 探究活動を意識しつつ, 教科・科目の本質に照らしておおむね必然性のある形で出題されているが, 会話形式のみの出題もあり, 読解が困難な設問もあった。
(5)問題構成	3	実験立案や考察, グラフ, 計算問題など多角的な問いが設定されている。単発の問いが減り, 過不足や穴埋めなどの出題形式が多様で, 分野融合の問題も工夫されていた。ただ, 時間のかかる問題が多すぎたので, 設問数の減少などで受験者へ配慮してほしい。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切であるが, 高校生物では使用されない語句(例:花穂)等には補足説明があった方がよいだろう。
(7)難易度	3	個々の問題についての難易度は適当であったが, 問題の分量が多すぎたため, 思考する時間が十分に確保できなかったのではないかと懸念される。
(8)得点のちらばり	4	正規分布になっており, 得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	上記の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると, 「知識・技能のみならず, 思考力・判断力・表現力等も重視して評価を行う」とする大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	地学基礎
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基礎的な知識・技能や思考力，判断力，表現力を問う問題作成であった。また、各分野・領域からバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	3	学習指導要領に示された範囲からおおむね出題されていたが、幾つか「地学基礎」の範囲外の設問が見られる。
(3)題材	4	特定の教科書による偏りは見られない。
(4)問題の場面設定	4	資料やデータ等を基に考察する設問や日常生活の課題についての設問があり、場面設定は適切である。
(5)問題構成	4	試験問題の構成（設問数、配点、設問形式）は適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正な範囲内である。
(8)得点のちらばり	3	高得点者が多く存在しているため、得点のちらばりはやや偏りのあるものであった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「地学基礎」の学習達成度を測るため、基礎知識・科学的な思考力・判断力・応用力等を総合的に問う問題で構成されている。

科目名	地学
-----	----

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、基礎的・基本的な設問や思考力・判断力・表現力等が必要な設問が、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から適切に出題され、「地学」の4分野を網羅してバランス良く出題されていた。
(3)題材	4	特定の教科書に偏ることなく出題されている。探究活動を取り上げた題材や、最新のトピックに関わる題材などが適切に取り上げられていた。
(4)問題の場面設定	4	探究活動や観察・実験、野外実習や天体観測など、共通テストの問題作成方針を踏まえた設問が複数あり、適切であった。
(5)問題構成	4	問題文の量は適正であり、選択肢の数等も適切であった。試験時間や受験者の学習状況と照らし合わせておおむね適切な問題構成であった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は、教科書を基にしたもので適切であった。図の表現も分かりやすくなるよう適切に工夫されていた。
(7)難易度	4	思考力、判断力を用いる設問と、基礎的事項を確認する設問がバランス良く配置され、適切な難易度となった。これまで平均点が他の理科教科に比べて低く、上位者でも満点を得にくい内容であったが、幅広く確実に学習した受験者が時間内に解答できる適切な構成となった。
(8)得点のちらばり	4	平均点、標準偏差、得点のちらばりはおおむね適正であった。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	地学の各分野からバランス良く、基礎的な学習の達成度や思考力を問う出題、探究活動を取り入れた出題がされており、共通テストとしておおむね適切な問題であった。従前の問題の評価・改善を踏まえ、学習範囲の幅が広い「地学」受験者の特性に配慮された作問がなされていた。

科目名	英語（リーディング）
-----	------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・理解を問う問題や思考力・判断力・表現力を発揮して解く問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	高等学校段階で学習する語彙・文法の知識で十分対応できるもので、受験者に極端に負荷になるようなものではなく、適切に出題されている。
(3)題材	4	日常的な話題から社会的な話題、アカデミックな内容まで幅広い題材がバランスよく取り入れられており、特定の題材に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	実際のコミュニケーションの場面を想定しており、授業での言語活動や学習の過程を意識した適切なものであった。
(5)問題構成	3	英文量に対して設問数が少ないものがあるなど、大問ごとの設問数にばらつきはあったが、問題構成としてはおおむね適切であった。
(6)表現・用語	4	文章表現は学習指導要領に示された範囲内で、それぞれの設定に応じ、適切なものであった。
(7)難易度	4	実際のコミュニケーションにおいて、様々な目的や場面、状況などに応じて適切に読み取る力を測るために、平易なものからやや難しいものまでバランスよく出題されている。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正で、幅広い受験者層を適切に識別できる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、グローバル社会で活躍する人材の育成を目指した英語教育改革の方向性を反映し、外国語の知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて活用できるかを評価するテストとして、適切である。

科目名	英語（リスニング）
-----	-----------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	コミュニケーションに役立つ英語力を測り、思考力・判断力・表現力等を測るという出題のねらいが明確であった。
(2)出題範囲	4	・特定の分野・領域に極端な偏りがなく、バランスの取れた出題であった。 ・「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」及び「英語表現Ⅰ」の検定教科書でよく扱われる内容・範囲が網羅されている。
(3)題材	4	・多岐にわたる内容があって良かった。 ・クリスマスやジェンダーに関わる内容には、今後さらに配慮をしていく必要があると思われる。
(4)問題の場面設定	4	馴染み深い日常の場面設定が多かった。
(5)問題構成	3	・大問5の講義形式の設問については2回読みにした方が良い。 ・会話形式の大問2については、1回読みでも良い。 ・大問1AとBの順番の入れ替えをした方が良い。 ・問題本文の構成(大問5の講義)へのさらなる工夫が求められる。
(6)表現・用語	3	・大問5の語彙は音声のみの題材としては、難しかった。 ・選択肢の表現(パラフレーズ)に工夫を要するところがあった。 ・短縮形の音声が少し聞きづらかった。
(7)難易度	4	CEFR A1～B1に相当する幅広い題材の問題であった。
(8)得点のちらばり	4	平均点から見ても、適切であったと思われる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	聞こえてきた音声を文字通りに理解するだけでなく、状況に応じた含意を汲み取り理解する力が求められ、思考力、判断力、表現力等を要する内容である。高校現場として、英語を実際のコミュニケーションで使う場面、状況を想定し、生徒自らがそれを体験するような統合した言語活動を行う授業設計を促進し指導の在り方を追求していく必要がある。

科目名	ドイツ語
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	出題方針についての情報提供がセンター側からなされておらず、判断材料がない。
(2)出題範囲	3	準拠すべき基準がないため判断は難しいが、受験者を「高校で3年程度ドイツ語を継続して学んできた」とするならば、やや広い。
(3)題材	4	幅広い題材からの出題ではあったが、おおむね妥当。ドイツ語以外の言語で、設問内容に対する予備知識の有無が、正答率に大きく影響を及ぼした可能性もある。
(4)問題の場面設定	3	特に第4問、5問の場面の切り替えがわかりにくく感じた。
(5)問題構成	3	第3問から1問減ったのが残念である。
(6)表現・用語	4	不適切なものがないが、場面を描写する言葉を同一の設問内であるならばドイツ語、日本語で統一された方がよい。 設問中に文法用語があるならば例の必要性をあまり感じない。
(7)難易度	4	授業数が限られた中では、過去形を読むなど難しいと感じるが、昨年度と比較すると概ね妥当であると考ええる。
(8)得点のちらばり	3	母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思わないが、おおむね妥当な範囲だと思われる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	昨年度と比較すると、語彙や表現に配慮が感じられ、好感が持てる。

科目名	フランス語
-----	-------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	識別力の高い問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等は適正であり、現代的な話題性に富む。
(4)問題の場面設定	3	概ね適正だが、一部に設定の不自然さを感じられる。
(5)問題構成	4	基礎から応用へと配列された試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	3	仏語圏での滞在経験を想定していると思しい表現が散見される。
(7)難易度	3	問題の難易度は概ね適正だが、時間を要する発問が散見される。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	一部に難化傾向はあるが全体として適切な試験である。

科目名	中国語
-----	-----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	表やグラフを使った問題など工夫がみられ、複数の言語材料を組み合わせて思考力や総合的な判断力を問う問題を含め、バランス良く出題されている。会話や文章題の空欄補充等も文法にこだわらず、会話や文の流れをとらえさせる問題であり、概ね適切である。
(2)出題範囲	4	学習指導要領第2章第8節では、「その他の外国語」は「英語に関する各科目」に「準じて行うものとする。」とあり、明確な範囲は考えにくいですが、3年間で学ぶ範囲として概ね適切な出題であった。主要辞書の重要語等を使うなど配慮があった。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っておらず、適切である。
(4)問題の場面設定	3	教科・科目の本質に照らして必然性のある形でおおむね出題されている。
(5)問題構成	4	発音・ピンインの理解・語句・表現・会話・図表の読み取り・長文読解の構成で、第4・5問では複数の言語材料が提示され、では文章量も増え、分析能力を重視している。試験時間と問題数のバランスも適切であり、この構成を維持していただきたい。
(6)表現・用語	4	設問の仕方は適切であり、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。設問の仕方は適切であり、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。
(7)難易度	3	問題の難易度はおおむね適正である。受験者の特性を鑑みて今後も平均点にこだわらず、適正な難易度を保っていただきたい。
(8)得点のちらばり	3	得点のちらばりはおおむね適正である。受験者の構成や科目の特性上、高得点者に偏りがみられるのはいたしかたない。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	高校の学習状況を考えて基礎的な学習の達成度や思考力が測れる問題の出題となっている。受験者の特性や科目の特性に配慮がなされ、よく工夫してあり、概ね適切な作問がなされている。

科目名	韓国語
-----	-----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	第1問の再考を願う。
(2)出題範囲	4	
(3)題材	4	
(4)問題の場面設定	4	自然なコミュニケーションに即した問題になってきている。
(5)問題構成	2	第1問, 第4問の改善が求められる
(6)表現・用語	4	
(7)難易度	3	一部学習範囲を超えた語彙, 表現がある。
(8)得点のちらばり	3	純粋な学習者のみが受験しているのではないので、判断できない。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	第1問の改善, 第4問の設問形式の改善を求める。